

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「筑後川関係地域の子ども若者支援の持続可能性向上プログラム」申請団体一覧

	団体名	所在地	事業名	事業概要
1	特定非営利活動法人風の アオライ	福岡県福津市	心和学園 多様な学びを支える体制強化と事業基盤の安定化	心和学園は、不登校や多様な学びを必要とする子どもたちに、体験型・探究型の学びを提供するオルタナティブスクールだ。自己肯定感と生きる力を育み、既存の教育にとられない場を提供している。現スタッフは教員経験者、児童福祉サービス経験者、子育て世代から子育てが終わった世代など多様な専門性と経験を持ち、山・海・畑などの自然環境を活かした教育活動を実施している。しかし現在、有償・無償問わずスタッフ確保が困難で、欠員時の運営リスクが高い状況だ。また、学費依存の収入構造のため、入学者が少ないと経営が不安定になる。他のフリースクール等より学費が高く、寄付やボランティアを集める仕組みが未整備であることも課題。伴走支援では、寄付獲得とボランティア募集の仕組みを構築し、組織基盤を強化する。具体的には、個人寄付100名・企業寄付3社を獲得し、年間寄付総額100万円を目指す。また、継続的に活動を支えるボランティア3名を確保する。並行して、広報強化や地域連携イベントを通じ入学者増加を図り、経営の安定化を実現する。支援終了時には、子どもたちの成長を共に支えられる仲間が増え、大人もいきいきと活動できる体制を整える。さらに、この体制を土台として、将来的には認可外保育園の開設や事業継承が可能な持続的組織へと発展させる。本支援を通じ、地域の子ども・若者支援の持続可能性を高め、未来を切り拓く学びの場を確立していく。
2	「タクティールケア専門」メンテナスえんざくら	福岡県久留米市	親子の安心基盤構築プロジェクト ～触れ合いを通じた心のケアによるうつ・虐待・事故予防～	自分自身、看護師として19年勤務してきました。その中で、職場環境、自然災害（熊本での地震）、プライベート（離婚）での負の連鎖が重なり、私はパニック障害、適応障害、うつ病を発症しました。看護学校で学んだ教科書通りの症状でしたが、文字で読むよりも何十倍も実際はきつかったです。一度、このような病気になると、何度も繰り返し症状を発症し、無意識に命を終えることを考える日もありました。そんな苦しい時期を乗り越え、現在は私のようにうつで苦しむ前に、予防ができたらと思い、起業しました。現在、私自身、向精神薬は内服しておらず、自分自身にもオキシトシンの分泌がみられる触れるケアを通して、心も安定しております。スウェーデン発祥のタクティールケア（触れるケア）は認知症緩和ケアとして日本に入ってきていますが、実際には心のケアと言われています。新生児から高齢者まで年齢関係なくできる触れるケアは、日本古来から言われているお手当ての効果をもたらしています。赤ちゃんの頃は不安なこと、怖いことがあれば、泣いたら誰かが抱っこしてくれて、あやしてしてくれたと思います。しかし、大人になると不安や恐怖心があっても言えない、我慢する。それが重なり、精神疾患になっていることが大半です。そこに、誰かが「大丈夫だよ」と背中手当てしてくれたら、抱きしめてくれたらどうでしょう。人としての温もりを感じ、心の支えになるのではないのでしょうか。私は、人としての温もりを通して、幸せを届け、誰かの心の灯になりたいと思い開業をしました。現在は個人のお宅に訪問して、マルシェに出店して、ボランティア活動としてホスピス病院や不登校児の居場所でのケアを提供しています。今後、母子支援としての事業、障がい者・高齢者施設においての事業を提供していきたいと考えており、公民館事業や市のイベントにも参加予定です。

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「筑後川関係地域の子ども若者支援の持続可能性向上プログラム」申請団体一覧

3	不登校・ひきこもり家族の会「ふきのとう」	福岡県大牟田市	生きづらさに寄り添う居場所づくりと社会へのつながり手ふきのとうの未来図 ～想いをつむぐ居場所づくりと持続可能なまちづくり～	当団体が運営する「ほっとスペースふきのとう」は、利用者が安心して過ごせる居場所となり、次のステップへとつながる場となることを目指し、不登校やひきこもりを「個人の問題」ではなく「社会の問題」として捉え、誰もが自分らしく生きられる社会の実現に向けた学びや活動の機会を提供する拠点づくりを進める。中期的には法人化を視野に入れ、平日毎日の開設を可能にするため、常勤スタッフの確保や企画・経理・労務管理などを担う人材の配置・育成を進め、持続可能な組織体制の強化を図るとともに、スタッフが安心して活動できるよう、養成講座や対話の場を継続的に設け、地域の他団体ともゆるやかにつながりながら、それぞれの強みを活かした協働を生み出す。 活動の柱としては、親の会やお父さん会などの継続的な実施による生きづらさを抱える人々の居場所づくり、講演会や進路相談会の開催による周知活動、関係団体との共同事業の実施などの他、当事者の経験を活かし、困難を抱える人々と共に作る学びの活動を展開する。これらを通じて、訪れた人が笑顔になり前向きな一歩を踏み出す場になることを目指す。財源確保としては、これまでの助成金獲得の経験を活かし、休眠預金、日本財団などの制度を活用した申請を戦略的に進める。さらに、ひきこもり経験者が空調設備のクリーニングなどを担うなど、収入を得ながら社会参加の機会を広げる実践的な支援を展開し、事業収入の創出にも取り組む。こうした活動は、本人の自信回復やスキル習得にもつながり、地域との接点を生むものになると捉えている。今後は、役員全員が不登校・ひきこもりの人たちの家族であるという強みを活かし、ふきのとうの理念に共感する企業や団体との連携を深め、居場所づくりと人づくりとを両立させるモデルを構築するとともに、共感を呼ぶ情報発信を通じて寄付金の獲得にも取り組み、地域に根ざした持続可能な活動基盤の構築を目指す。
4	けいちくトイロ	福岡県行橋市	けいちく多様な学び支援の基盤強化プロジェクト つながり・学び・安心が息づく行橋・京築地域へ	けいちくトイロは、不登校や多様な生き方を求める子ども・若者とその家族が孤立せず、安心して暮らせる社会を目指し、2019年から6年間活動を継続して行ってきました。具体的な活動として、保護者交流会、親子の居場所づくり、個別相談、講演会や上映会、支援者交流会の定期開催、行政・民間団体との連携など、包括的な支援を展開してきました。運営メンバーは10代～50代の多様な男女で構成され、当事者目線と多角的な視点を活かした活動がメディアや行政刊行物にも紹介されるなど、地域での信頼を得ています。一方で、資金は助成金や単発寄付に依存し、安定的収益基盤や雇用創出ができていません。スタッフはほぼ無償で活動し、交通費を自己負担することもあります。事務局機能が代表・副代表に集中し、業務分担や後継体制、人材育成が不十分で、組織の継続性に課題があります。活動計画も当事者ニーズに応じた変更が多く、戦略性や計画性が不足しています。寄付サイトはあるものの継続的寄付はなく、ファンディングの知識不足も課題です。伴走支援を通じて、NPO法人化を実現し、信頼性と基盤を強化します。ロジックモデルを再構築し、事業を戦略的に整理します。収益事業の立ち上げやクラウドファンディング活用により財源を多様化し、謝金支給や雇用創出を進めて持続可能な体制を整えます。また「自由クラブ」「保護者おしゃべり会」「個別相談」「支援ネットワーク」等を拡充し、地域の誰もが支援にアクセスできる「総合支援拠点」を設置。広報にも注力し、「京築で不登校支援といえはけいちくトイロ」と認知される専門性を確立します。支援終了時には特例認定NPO法人を目指し、寄付・助成金・事業収益を組み合わせ年間300万円規模を達成。将来的には行政委託事業を担える団体へ発展し、地域に不可欠な存在として子どもと家庭の安心を支える持続可能な仕組みを築きます。

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「筑後川関係地域の子ども若者支援の持続可能性向上プログラム」申請団体一覧

5	NPO法人アコア	福岡県福岡市	組織基盤強化事業	組織診断でビジョンとミッションを見直し、団体全体での共通理解を整え、新たな広報戦力とともに掲げていきたい。個別伴走のご支援を仰ぎながら財務の健全化を行い、人員を確保してNPO活動の事務局機能を充実させる。当事者同士の相互支援活動の特性と実績を活かし、具体的かつ現実的な事業計画を練り、事業継承者の育成に注力できる組織基盤を整え、当事者家族やパートナーが立ち寄れる回復や啓発の情報提供を目的とした「情報提供カフェ（仮称）」やセルフケアグッズのオンライン販売等のB型事業所構想についても練っていきたい。事業継承同様に、各地の姉妹団体の事業所化を応援できるよう支援内容のマニュアル化を行いたい。
6	一般社団法人Life is	福岡県糸島市	1人1人が得意な事・好きな事で様々な意義や価値、そしてお金を生み出す事が出来る環境作り ～ありのままの自分で過ごせる居場所作り～	不登校の子ども、その家族に対してのサポートをメインに毎週金曜日に居場所を無料で開放している。場所は地域の障がい者支援を行っている団体さんの建物の2階を無償で貸して頂いている。子供たちのやりたいことを中心に一緒に遊びや物づくり、調理やスポーツなどをして過ごしている。違う曜日に参加費500円で拳法黒帯の資格を所有しているスタッフによる拳法教室、材料代のみの参加費でパン作りを仕事としているスタッフによるパン教室、アクセサリ作家として活動しているスタッフによる手芸ワークショップを定期的に開催している。また外部から講師の方をお呼びしてサッカーチームの監督によるサッカー体験や科学が得意な方の科学実験や調理師による料理教室なども実施している。エフコープ元気応援助成金を利用し講師の方に講師料をお支払いすることで、無料で参加してもらったり参加費を安めに設定して頂いて参加出来ている。しかし低額な助成金なのでもう使い切ってしまったので今後の講師料はこちらの手出し、または参加費徴収の形を取っていくことになる。参加費徴収が続くとご家庭への負担が大きくなってくるので参加したくても出来ない子が出てきそうなので、他に貰えそうな助成金を探している。その他、マルシェやイベントの出店を不登校の子に限らず子供たちと参加することで子供たちの繋がりも作っている。子供たちが研究したレシピを元にこれまで米粉を使用した米粉ピザ、米粉ワッフル、米粉ベビーカステラ等のフード提供や繊細で大勢の場所が苦手な子や子育てや仕事に追われてなかなか自分では販売が難しい大人が家で作ったハンドメイド雑貨などをあずかり委託販売もしている。イベントやマルシェに向けての準備、活動する経験は、学校では学べない経験として貴重な子供たちの学びの一環となっている。

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「筑後川関係地域の子ども若者支援の持続可能性向上プログラム」申請団体一覧

7	つながるツリーハウス	福岡県八女市	地域材を活用した木育による 子ども・若者の居場所づくりと地域交流促進事業事業 森と人をつなぐプロジェクト	本事業は、森林保全や適切な間伐の大切さと、それが地域の防災・減災につながることを、地域の方々とともに学び考えるきっかけをつくることを目的としています。災害が頻発する現代において、健全な森林は土砂災害や洪水のリスク低減に大きく寄与し、地域の安全を守る存在です。私たちは八女杉などの地域材を活用した木育ワークショップを通じて、子どもや若者、保護者、高齢者など多様な世代が木とふれあい、五感で体験する機会を提供し、自然と暮らしの関わりを実感できる場をつくります。 活動主体は任意団体「つながるツリーハウス」であり、建築士の代表を中心に5名の役員と20名の協力メンバーで運営しています。代表が持つ建築の知識と経験を活かし、安全で創造的な木育プログラムを設計できることが強みです。2025年度は、ジャングルジムづくりワークショップ2回、木組みの積み木遊びワークショップ2回、さらに各ワークショップ後に地域住民や学生、保護者の声を集める座談会を2回実施し、合計6回の事業を展開します。各回60名程度の参加を見込み、親子での遊びや自然体験を求める保護者、不登校の子どもたちが安心して過ごせる場を提供します。学生ボランティアには運営サポートを担ってもらい、地域活動に参加する中で自分の役割や得意を発見し、将来の就職や社会参加につなげられるようにします。座談会で得た声を次回以降に反映することで、地域や子どもたちの実情に即した活動を継続的に改善し、真に必要とされる居場所を形にしていきます。木育を通じた交流の場は、子どもや若者にとっての居場所づくりであると同時に、森林資源の価値や防災意識を共有する学びの場でもあります。世代や地域を超えた関わりが生まれることで、人と人、自然と人とのつながりを強め、持続可能な地域づくりに貢献していきます。
8	特定非営利活動法人子どもパートナーズHUGっこ	福岡県古賀市	子育て支援事業及び子どもの居場所・体験事業	当団体は、子どもの居場所事業「たまりんば」と体験事業「わくわくクラブ」を軸に、子どもの成長を多面的に支える活動を展開している。夕食提供や食品支援、学習・相談支援、体験活動を通じて、制度の狭間にある子どもや家庭に安心できる環境を提供してきた。参加者は年々増加し、学校や行政からの信頼も厚く、大学との連携による学生スタッフの参画や、中高生ボランティアの育成など、地域のつながりを活かした支援が広がっている。一方で、人材と資金の不足から長期休暇中の活動が十分に実施できず、活動スペースや拠点の不在、助成金頼みの財源構造など課題は多い。特に組織運営は代表者に依存し、理事の高齢化も進んでいるため、次世代への権限委譲や事業承継をいかに進めるかが喫緊の課題である。また、寄付システムやファンドレイジング体制が整備されていないことから、安定財源の確保が十分にできていない。本件走支援を通じて、会計・財源基盤の強化と組織運営の次世代化に重点的に取り組む。具体的には、寄付システムの導入やファンドレイジングの知識習得を進め、企業や市民からの広がりある寄付を呼び込み、継続的な収入源を確立する。その基盤の上で、次世代の理事やスタッフが主体的に意思決定に参画し、代表者依存から脱却した持続可能な組織体制を築きたい。そして寄付収入を安定させることで、次世代が「生業」として本活動に関わり続けられる環境を整えたい。 さらに、本プログラム終了後には、自団体の成長だけでなく、子ども自身の声を尊重する「子どもアドボカシー」が地域に広がることを目指す。その過程で、子ども支援の意義や社会課題への理解が地域社会全体に浸透し、一般市民が支援の当事者として関わる機運を醸成したい。最終的には、真に誰一人取り残されない社会を実現し、子どもが安心して成長できる地域環境を築くことを目標とする。

一般財団法人ちくご川コミュニティ財団 2024年度休眠預金等活用事業「筑後川関係地域の子ども若者支援の持続可能性向上プログラム」申請団体一覧

9	特定非営利活動法人フリースペースよつば	福岡県朝倉市	よつば未来デザイン事業	まず、スタッフの育成・採用・定着支援を重点課題とし、マンツーマン支援体制を確実に行えるようなスタッフの補充を最終目標とし、事業終了までには大学生ボランティア・社会人ボランティアなどの子どもたちにかかわる人材の増加を図る。これにより、子どもたちとの対話の時間を増やし、子ども一人ひとりに寄り添うマンツーマン対応の充実により、子どもたちの主体性と自己肯定感を高める支援を強化。主体性育成と自分らしさの尊重が促進され、質の高い支援体制を構築する。併せて、事業継承に向けた組織運営体制の見直しや次世代スタッフの育成を進め、持続可能な組織基盤の確立を目指す。 次に、行政や地域、学校、保護者、支援者との連携強化に向けた広報活動の充実を目指したい。SNSや「よつば便り」を活用し、活動内容の定期的な発信や交流イベントの企画・運営を通じて理解促進を図る。特に卒業生との交流会も継続的に開催し、世代を超えたネットワーク形成を推進する。そして、活動の理解者を増やし、マンスリーサポーターや個人寄付、地元企業から支援されるようになる。当面の目標としては、マンスリーサポーターを受け入れることのできる基盤づくりと、1人でも多くの支援者を増やすこととする。それに伴いファンドレイジングのノウハウ習得も重要課題であり、支援団体の伴走により具体的な計画策定と実践を進めたいと考えている。また、行政に対してのアプローチを行い、フリースクールの価値や活動の意義を広く伝え、理解と協力の輪を広げる。 さらに、業務効率化のためのDX化支援を受け、記録管理や情報共有、連絡体制のデジタル化を進め、スタッフの負担軽減と迅速な対応を可能にする。
10	特定非営利活動法人舞台アート工房・劇列車	福岡県久留米市	組織と財政と広報の三位一体で事業を支える力を伸ばすプロジェクト 体験格差是正をめざす強化プロジェクト	【久留米エリアの「こどもの体験格差」を是正するため、人材（次世代の担い手）育成を行い、財政を多様化し、他との連携を発展させる】①各種養成講座を活用した人材養成システムを生み出すことで、次世代の事業の担い手を育成する。②組織の現運営会員（正会員）の意識改革を行い、一方で多様な能力をもった新運営会員の勧誘をおこなうことで、次世代の会員を増やす。③理事会を組織のリーダー機関として育てながら次世代の理事候補を生み出し、理事会の世代交代を進める。その際に多様な能力をもったメンバーが理事になるよう配慮し、バランスのとれた理事会を形成する。④事務局（バックオフィス）に次世代のメンバーを入れて、多忙かつ過密労働が常態化した事務局の再編強化を行う。そのことで、組織のそれぞれのポジションがそれぞれの本来の役割を果たせ、組織全体の力が高まることをめざす。⑤マンスリーサポーター制度導入とクラウドファンディングへの挑戦を行うことで、財政財源を多様化する。⑥そのとりくみによって、助成金と自主財源のバランスがとれた財政の多様化をめざす。⑦他と連携しながら、久留米の体験格差是正のとりくみを進める。以上の①～⑦によって組織と財政基盤を強化しながら、久留米の体験格差是正と困難を抱えたこども（家庭）を励ます幣団体プログラムを強化多様化させ、体験格差是正に寄与する。また各専門機関（大学など）や隣接分野の専門家、行政や各市民活動団体との連携を年次ごとに発展させながら、格差是正に向けた多様なとりくみをスタートさせる

11	おばちゃんち	福岡県朝倉市	ごちゃまぜでみんながほっとできる居場所づくり	近年、子ども達は、学校に行くのが難しかったり、人との関わりに戸惑いを感じている子も多いようです。また、田舎ということもあり学校の校庭やショッピングモールしか集まらない環境にもなっているようです。子ども達はもちろん、大人も集まれる居場所が必要であるとの思いから「おばちゃんち」を立ち上げました。ボランティアを中心に「第三の居場所」フリースペースとして運営しています。火曜日・木曜日は、14時から開けており放課後の遊び場としても利用できます。子ども達のお腹がすいたあの気持ちや保護者の皆さんの帰宅後のイライラ軽減になればとの思いから、毎回、おやつ（できるだけ手作り）を提供しています。子ども達は、本を読んだり、カードゲームをしたり、宿題をしたり、お昼寝をしたり、おやつを食べたりとそれぞれに合った過ごし方ができます。自分で考え行動することにより「自分はこのままでいいんだ」と思える環境づくりを心がけています。毎月2回の子ども食堂も開催しており、地域をつなぐ場所になればとも考えています。子ども達の「美味しかった」の笑顔にボランティアスタッフの活動の支えとなっています。長期休暇には、お泊り会、夏祭り、流しそうめん等沢山のイベントをしています。子ども達の「また来るね」と笑顔で帰っていく姿はここにいてもいいんだと感じられた証のようにみえます。また、保護者の皆さんにとっても日々の悩みを話したり、同じ思いをもつ人とのつながりができることから安心できる場所として利用されています。これからも、様々な方に関わっていただきながら、子ども達をみんなで守る仕組みを広げていきたいと考えています。学校や地域の機関ともつながりを持ち、途切れなく子どもと家庭を支えられるように工夫が必要であると実感しています。子ども達が安心して笑顔で過ごし、大人もほっとできる時間と空間を皆さんと一緒に作り、長く続けていくこと。それが私たちの願いです。
----	--------	--------	------------------------	--

※申請順